

◆ 今週のコメント

- 新型コロナウイルス感染症の報告が122例(男性64例(小学生1例, 10歳代3例, 20歳代25例, 30歳代9例, 40歳代11例, 50歳代10例, 60歳代2例, 70歳代3例), 女性57例(小学生2例, 10歳代5例, 20歳代26例, 30歳代2例, 40歳代5例, 50歳代6例, 60歳代1例, 70歳代4例, 80歳代4例, 90歳代2例), 未就学児1例(年齢性別非公開))あり, 累積報告数は696例となりました。本感染症の最新の動向及び詳細については下記URLをご参照ください。
 - 新型コロナウイルス感染症 最新の動向
<https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000268303.html>
 - 京都市衛生環境研究所にゅーす 令和2年度 第1号(通巻139号)(特集! 新型コロナウイルス感染症!)
<https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/cmsfiles/contents/0000175/175313/news2020-01.pdf>
- 日本紅斑熱の報告が1例(70歳代女性)あり, 症状は発熱, 頭痛, 刺し口, 発疹及び肝機能異常, 感染地域は国内, 感染経路は動物・蚊・昆虫等です。本年の累積報告数は2例となりました。
- レジオネラ症(ポンティアック熱型)の報告が1例(90歳代女性)あり, 症状は発熱, 感染地域は国内, 感染経路は不明です。本年の累積報告数は7例となりました。
- 梅毒の報告が2例(ともに20歳代男性)(第30週及び第31週追加報告分)あり, いずれも感染地域は国内, 感染経路は性的接触です。本年の累積報告数は39例となりました。

梅毒の感染経路はほとんどが性的接触です。不特定多数との性的接触を避け, コンドームの使用などの予防策をとってください。重症化及び感染拡大を防ぐためには早期発見, 早期治療が非常に重要です。
- 破傷風の報告が1例(70歳代男性)あり, 症状は開口障害, 強直性痙攣です。感染地域は国内で, 感染経路は創傷です。本年初めての報告となっています。
- ヘルパンギーナの定点当たり報告数は0.19(8例)となり, 少ないながらも第29週から3週連続でやや増加傾向です。全国では0.93となり, 第18週から9週連続で増加しています。流行期に入っていることから手洗い, うがいを励行して予防に努めましょう。

◆ 今週のトピックス: <破傷風>

京都市では, 2020年第32週に破傷風が1例報告されました。これまで京都市では過去14年間で7例(全て男性)と散発的に報告があり, 2018年からおよそ1年半ぶりの発生となります。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- 二類:結核 3例(肺結核 1例, その他結核 なし, 潜在性結核感染者 2例)うち喀痰塗抹陽性 なし
【1月以降の累積報告数 155例(肺結核 72例, その他結核 30例, 潜在性結核感染者 53例)うち喀痰塗抹陽性 33例】
- 指定感染症:新型コロナウイルス感染症 122例【1月以降の累積報告数 696例】
- 四類:日本紅斑熱 1例【1月以降の累積報告数 2例】
- 四類:レジオネラ症 1例【1月以降の累積報告数 7例】
- 五類:梅毒 2例【1月以降の累積報告数 39例】
- 五類:破傷風 1例【1月以降の累積報告数 1例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点69, 小児科定点43, 眼科定点10, 基幹定点1)

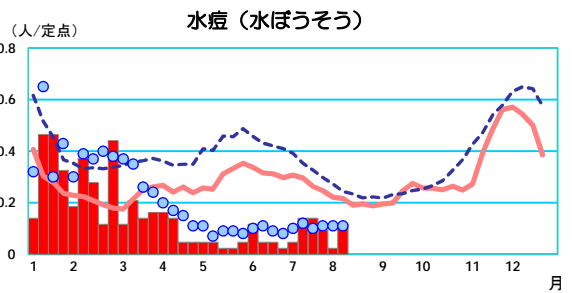
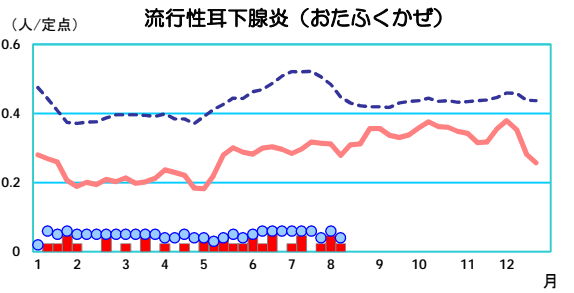
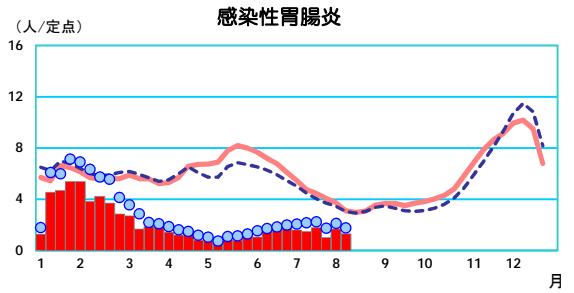
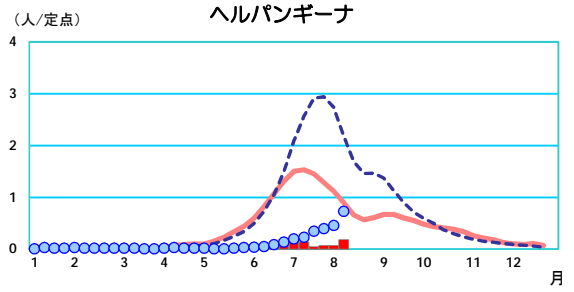
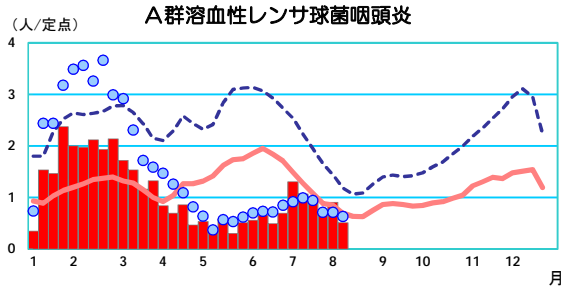
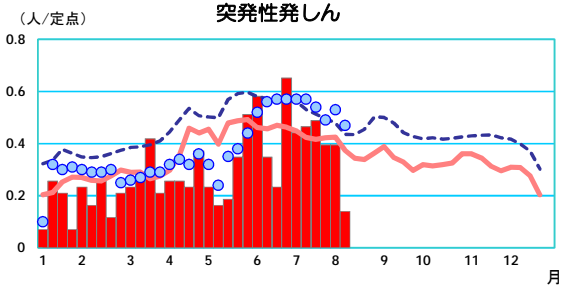
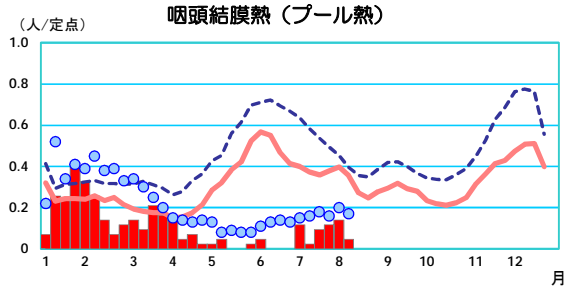
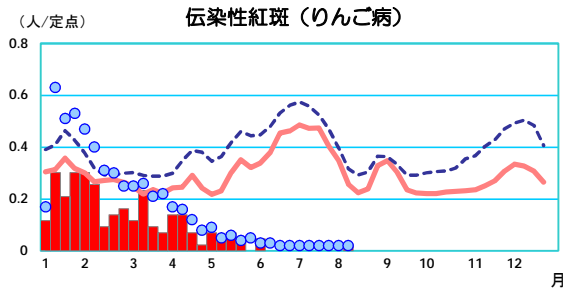
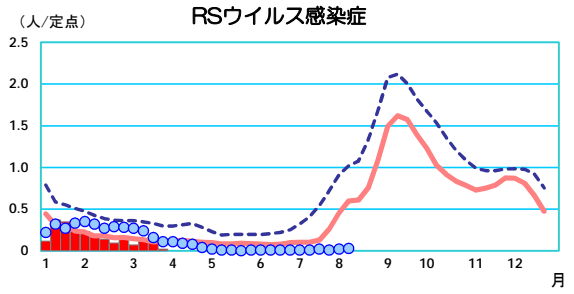
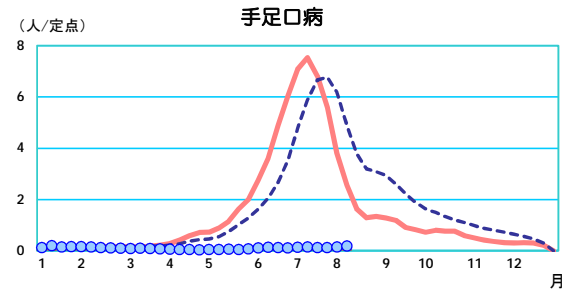
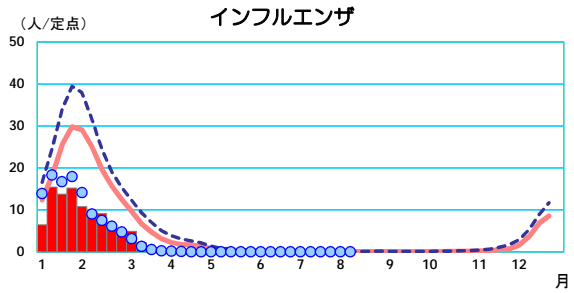
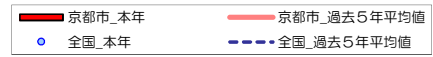
定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0.00	0
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	1.30	56
	② A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.51	22
	③ ヘルパンギーナ	0.19	8
	④ 突発性発しん	0.14	6
	⑤ 水痘	0.12	5
眼科	流行性角結膜炎	0.20	2

【次ページ以降の主な内容】

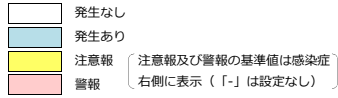
発生状況の概況グラフ / 発生状況地図 / 今週のトピックス: <破傷風>
付表(疾病, 行政区別報告数 / 年齢階級, 疾病別報告数 / 週, 疾病別報告数)

(注)京都市のデータは, 2020年8月12日現在の報告数で, 全国の還元データと若干異なる場合があります。
また, 本情報での患者数は, 届出医療機関所在地での集計で, 患者の住所を示すものではありません。
* 感染地域及び感染経路については推定を含みます。

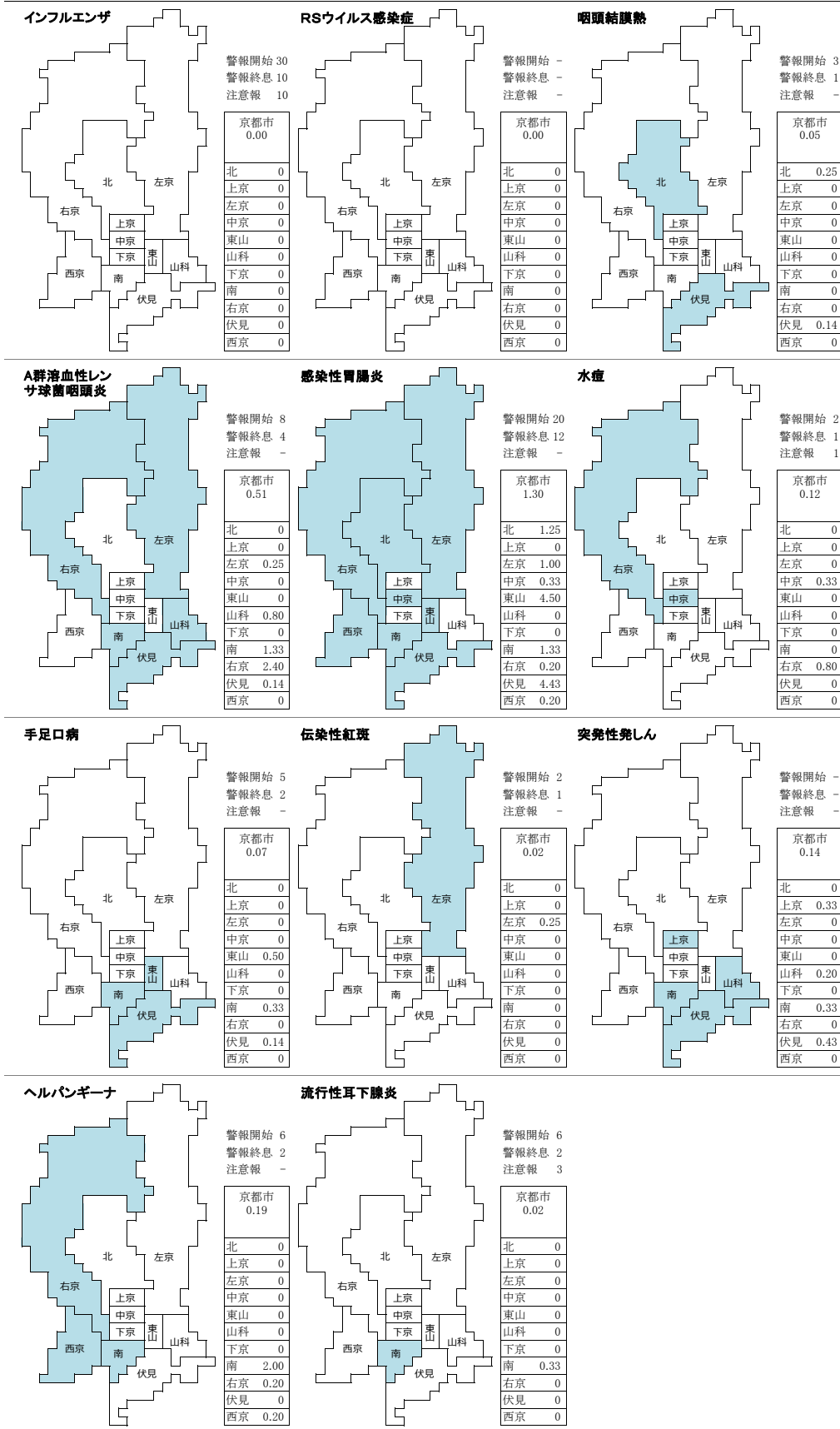
インフルエンザ及び小児感染症の疾病別推移グラフ（2020年）



インフルエンザ及び小児感染症の発生状況地図【2020年 第32週】



※定点医療機関の所在地に基づいた集計結果となっています。
 したがって、定点当たり報告数は医療機関の「立地条件」や「規模の大小の影響を受ける場合がありますので、ご注意ください。」



第32週(8月3日～8月9日)トピックス:<破傷風>

京都市では、2020年第32週に破傷風が1例報告されました。これまで京都市では過去14年間で7例(全て男性)と散発的に報告があり(表1)、2018年からおよそ1年半ぶりの発生となります。戦後すぐの日本では致死的な感染症であり、1950年には2,000人近い患者のうち約8割が死亡していました。1968年に破傷風のトキソイドワクチンが法定接種に含まれるようになり、1990年代には一時、患者数が年間30人程度まで減少しました。しかし、2010年代には年間130人前後まで増加し、毎年死亡者が発生しているため、今後の動向に注意が必要です(図1)。

破傷風の原因はグラム陽性偏性嫌気性有芽胞桿菌である破傷風菌(*Clostridium tetani*)で、顕微鏡下では太鼓のバチ状(又はドラムスティック状、マッチ棒状)と表される独特の形態が観察されます(図2)。破傷風菌は大気中で容易に死滅しますが、そうした劣悪な環境では芽胞を形成し、芽胞の状態では熱や乾燥等にも高い耐性を持ちます。破傷風菌は芽胞の状態では世界中の土壌に広く存在しているため、病原体を根絶することは不可能であり、誰でも感染する可能性があります。

破傷風の感染経路は創傷感染であり、錆びた釘を踏む、転倒した怪我、動物の咬傷等から感染します(通常、人から人へは感染しません)。このため災害時にがれきの撤去作業等で発生することが知られています(*3)。庭の手入れ等で発生する擦過傷等の微細な傷でも感染が成立すると考えられ、受傷部位が特定できない例も少なからず存在します。傷口に土砂が付着する等、破傷風菌による汚染が疑われる場合には、消毒等適切な処置を行うことで発症を防ぐことができます。交通事故等で予期せず受傷した場合にも、予防接種が完了していれば、直ちに追加接種を行うことで発症予防が期待できます。

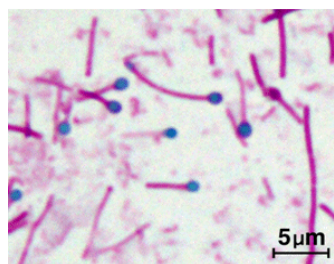
症状は破傷風毒素のうち、神経毒素であるテタノスパズミンによって全身の筋肉が強く収縮することで起こります。第一期には口が開けにくくなって(牙関緊急)ものが飲み込みにくくなり、第二期には顔面筋の緊張によって苦笑したような表情(瘻笑)が現れます。第三期には弓なりに全身を反らすような姿勢(後弓反張)になり、加療しなければ呼吸障害によって高率に死亡します。この時には高度の強縮から脊椎が骨折することもあります。治療には抗菌剤や抗破傷風ト免疫グロブリン製剤を使用しますが、後者は発症初期でなければ十分な効果が得られにくくなります。発症後回復した場合でも、トキソイドワクチンを接種した場合とは異なり免疫は得られないため、複数回発症することもあります。

全国の過去14年間の報告をみると、60歳代と70歳代以上で全体の約8割を占めます(図3)。これは、1968年から破傷風トキソイドワクチンが法定接種になったので、それ以前に生まれた世代は予防接種を受けていないことが多いためであると考えられます。現在では7歳半までに4種混合ワクチン4回と11歳から13歳になるまでに2種混合ワクチン1回の計5回接種し(*4)、予防接種完了後10年間は発症防御に十分な抗体価を維持できるとされています。それ以後は徐々に減退してゆくとため、破傷風のリスクが高い災害現場等で作業を行う場合で、10年以上追加接種を行っていない方は、追加接種が推奨されています(*5)。

○京都市情報館ホームページ「京都市が実施する子どもの定期予防接種について」
(<https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000130799.html>)

表1. 2006年以降における京都市の破傷風症例

2006年	60歳代男性
2007年	30歳代男性
2012年	40歳代男性
2014年	60歳代男性
2015年	70歳代男性
2017年	60歳代男性
2018年	50歳代男性
2020年	70歳代男性



(注)
芽胞染色としてWirtz法が用いられており、菌体が赤く、芽胞が青く染出されている。

図2. 破傷風菌の芽胞染色像(*2)

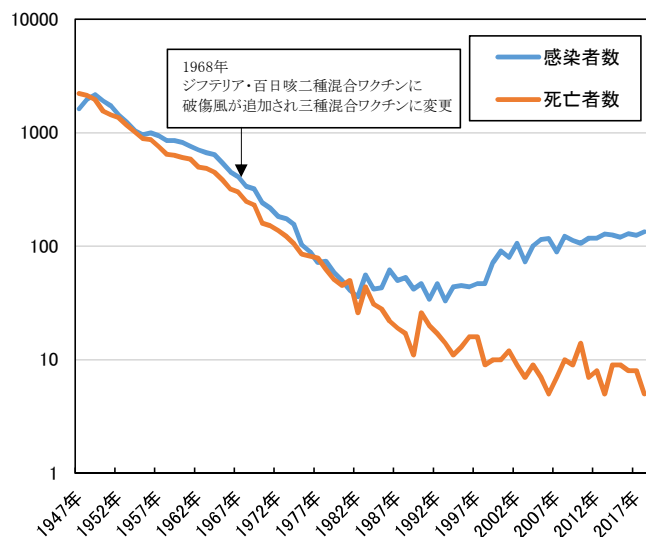


図1. 日本における破傷風の患者数及び死亡数(*1)

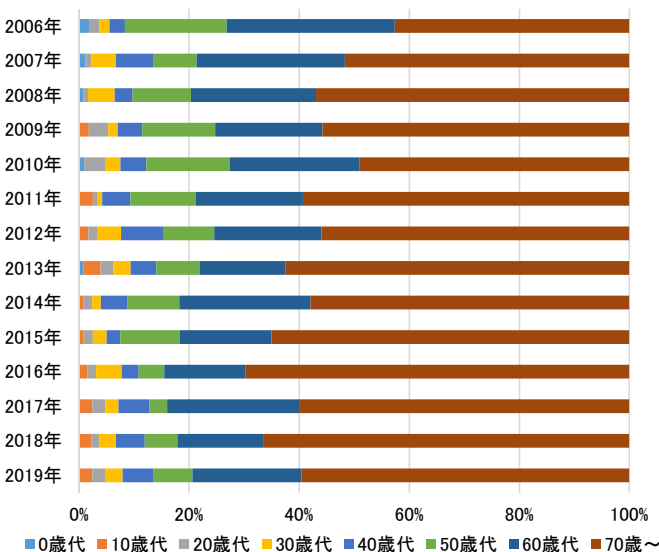


図3. 日本における破傷風患者の年齢階級別割合

本文は以下のウェブサイトを参考に作成(以下、全て2020年8月12日閲覧)

○国立感染症研究所「破傷風とは」
(<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/466-tetanus-info.html>)

(*1)以下のウェブサイトの情報を元に作成
○国立感染症研究所「感染症発生動向調査」
(<https://www.niid.go.jp/niid/ja/ydata/9010-report-ja2018-30.html>)

○国立感染症研究所「伝染病及び食中毒統計年報」
(<https://www.niid.go.jp/niid/ja/from-idsc/9524-densen.html>)

○e-Stat「人口動態統計」
(<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/>)

(*2)IASR「漬物石による外傷後に発症し...分離された破傷風の一例」より引用
(<https://www.niid.go.jp/niid/ja/tetanus-m/tetanus-iasrd/5763-kj4242.html>)

(*3)IDWR 2012年第45号「東日本大震災に関連した破傷風」
(<https://www.niid.go.jp/niid/ja/tetanus-m/730-idsc/2949-idwrs-1245.html>)

(*4)公益社団法人 日本小児科学会「日本小児科学会が推奨する予防接種スケジュール」
(https://www.jpeds.or.jp/modules/general/index.php?content_id=9)

(*5)一般社団法人 日本環境感染学会「医療関係者のためのワクチンガイドライン」
(<http://www.kankyokansen.org/uploads/uploads/files/jsipc/tsuiho-2.pdf>)

T3201

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2020年第32週

疾病,行政区別報告数

2020年8月3日～2020年8月9日

データ入手日:2020年8月12日

	インフルエンザ (※1)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	頭A群 溶血性レンサ球菌咽 頭炎	感染性胃腸炎	水 痘	手足口病	伝 染性紅斑	突 発性発しん	ヘル パンギーナ	流 行性耳下腺炎	急 性出血性結膜炎	流 行性角結膜炎	細菌性髄膜炎 (※2)	無 菌性髄膜炎	マイ コプラズマ肺炎	クラ ミジア肺炎 (※3)	感 染性胃腸炎 (※4)
男女合計	-	-	1	-	5	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
北	-	-	1	-	5	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
上京	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
左京	-	-	-	1	4	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
中京	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東山	-	-	-	-	9	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山科	-	-	-	4	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
下京	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
南	-	-	-	4	4	-	1	-	1	6	1	-	-	-	-	-	-	-
右京	-	-	-	12	1	4	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-
伏見	-	-	1	1	31	-	1	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-
西京	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
京都市計	-	-	2	22	56	5	3	1	6	8	1	-	2	-	-	-	-	-

疾病,行政区別定点当たり報告数

	インフルエンザ (※1)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	頭A群 溶血性レンサ球菌咽 頭炎	感染性胃腸炎	水 痘	手足口病	伝 染性紅斑	突 発性発しん	ヘル パンギーナ	流 行性耳下腺炎	急 性出血性結膜炎	流 行性角結膜炎	細菌性髄膜炎 (※2)	無 菌性髄膜炎	マイ コプラズマ肺炎	クラ ミジア肺炎 (※3)	感 染性胃腸炎 (※4)
男女合計	-	-	0.25	-	1.25	-	-	-	-	-	-	-	1.00	-	-	-	-	-
北	-	-	0.25	-	1.25	-	-	-	-	-	-	-	1.00	-	-	-	-	-
上京	-	-	-	-	-	-	-	-	0.33	-	-	-	-	-	-	-	-	-
左京	-	-	-	0.25	1.00	-	-	0.25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
中京	-	-	-	-	0.33	0.33	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東山	-	-	-	-	4.50	-	0.50	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山科	-	-	-	0.80	-	-	-	-	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-	-
下京	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
南	-	-	-	1.33	1.33	-	0.33	-	0.33	2.00	0.33	-	-	-	-	-	-	-
右京	-	-	-	2.40	0.20	0.80	-	-	-	0.20	-	-	1.00	-	-	-	-	-
伏見	-	-	0.14	0.14	4.43	-	0.14	-	0.43	-	-	-	-	-	-	-	-	-
西京	-	-	-	-	0.20	-	-	-	-	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-
京都市計	-	-	0.05	0.51	1.30	0.12	0.07	0.02	0.14	0.19	0.02	-	0.20	-	-	-	-	-

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2020年第32週

年齢階級, 疾病別報告数

2020年8月3日～2020年8月9日

データ入手日:2020年8月12日

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上	
男女合計	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上		
	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳以上	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上		
	年齢4	総数	0歳	1歳-	5歳-	10歳-	15歳-	20歳-	25歳-	30歳-	35歳-	40歳-	45歳-	50歳-	55歳-	60歳-	65歳-	70歳以上					
インフルエンザ(※1)	年齢1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
RSウイルス感染症	年齢3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
咽頭結膜熱		2	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		22	-	-	3	1	3	1	-	-	7	1	1	1	-	4	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎		56	-	2	5	4	3	4	7	1	2	5	5	4	2	12	-	-	-	-	-	-	-
水痘		5	-	-	-	1	1	-	1	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
手足口病		3	-	-	1	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑		1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発しん		6	-	1	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ		8	-	1	5	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎		1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎		2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-
細菌性髄膜炎(※2)		年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
マイコプラズマ肺炎	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
クラミジア肺炎(※3)	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
感染性胃腸炎(※4)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

年齢階級, 疾病別定点当り報告数

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上	
男女合計	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上		
	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳以上	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上		
	年齢4	総数	0歳	1歳-	5歳-	10歳-	15歳-	20歳-	25歳-	30歳-	35歳-	40歳-	45歳-	50歳-	55歳-	60歳-	65歳-	70歳以上					
インフルエンザ(※1)	年齢1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
RSウイルス感染症	年齢3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
咽頭結膜熱		0.05	-	-	0.05	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.51	-	-	0.07	0.02	0.07	0.02	-	-	0.16	0.02	0.02	0.02	-	0.09	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎		1.30	-	0.05	0.12	0.09	0.07	0.09	0.16	0.02	0.05	0.12	0.12	0.09	0.05	0.28	-	-	-	-	-	-	-
水痘		0.12	-	-	-	0.02	0.02	-	0.02	-	0.02	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-
手足口病		0.07	-	-	0.02	-	-	0.02	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑		0.02	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発しん		0.14	-	0.02	0.12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ		0.19	-	0.02	0.12	0.02	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎		0.02	-	-	-	-	-	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎		0.20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.20	-	-	-	-
細菌性髄膜炎(※2)		年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
マイコプラズマ肺炎	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
クラミジア肺炎(※3)	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
感染性胃腸炎(※4)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

T3203

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2020年第32週

週, 疾病別報告数

データ入手日:2020年8月12日

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ ※1)	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	5	1	4	5	6	2
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	56	46	41	29	39	22
感染性胃腸炎	69	64	76	43	72	56
水痘	2	6	6	4	1	5
手足口病	6	2	1	4	7	3
伝染性紅斑	-	-	-	-	-	1
突発性発しん	19	20	21	17	17	6
ヘルパンギーナ	7	6	2	3	3	8
流行性耳下腺炎	1	2	-	1	2	1
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	-	3	-	1	4	2
細菌性髄膜炎 ※2)	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 ※3)	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 ※4)	-	-	-	-	-	-
合計	165	150	151	107	151	106

週, 疾病別定点当たり報告数

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ ※1)	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	0.12	0.02	0.09	0.12	0.14	0.05
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.30	1.07	0.95	0.67	0.91	0.51
感染性胃腸炎	1.60	1.49	1.77	1.00	1.67	1.30
水痘	0.05	0.14	0.14	0.09	0.02	0.12
手足口病	0.14	0.05	0.02	0.09	0.16	0.07
伝染性紅斑	-	-	-	-	-	0.02
突発性発しん	0.44	0.47	0.49	0.40	0.40	0.14
ヘルパンギーナ	0.16	0.14	0.05	0.07	0.07	0.19
流行性耳下腺炎	0.02	0.05	-	0.02	0.05	0.02
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	-	0.30	-	0.10	0.40	0.20
細菌性髄膜炎 ※2)	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 ※3)	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 ※4)	-	-	-	-	-	-
合計	3.84	3.72	3.51	2.57	3.82	2.62

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。